

EPAハノイ便り

8月号

平成29年8月31日

ARCベトナム校発行

EPA研修8月は専門講義期間です。この期間
は看護、介護に分かれて、日本からいらっしやった先
生方にそれぞれ専門の理論・実技を学ぶ期間です。
新聞部員がまとめた記事をお読みください。

・介護

7月31日から8月13日の2週間で専門授業を
行いました。大教室において、210人の介護福祉士候
補者に対して、日本からいらっしやった先生方が専門
講義を担当しました。前半の1週間は介護実技、後
半は介護理論という授業でした。

候補者たちは介護実技や介護理論を勉強しました。
先生方がいるんな役立つことを教えてくださいました。
ベトナムでは介護の仕事はまだ発展していません
が、先生方が詳しく教えてくださったおかげで、皆よ
くわかるようになりました。

介護とは日常生活行動に困難をかかえた人に対し
て、人間らしい、普通の生活ができるように環境を整
えたり、手助けしたりすることです。そして、高齢者
の身体特徴や心理的特徴、それに高齢者への話しかけ
方も勉強しました。それは候補者にとって、とても必
要な知識だと思います。

介護の技術について、移動する介助、食事介助、排
泄介助も先生方がわかりやすく説明してくださいいま



最初は体操です。歌を歌いながら体の部位の名前も覚えます。

なくともできました。ですから、候補者たちは安心で
きました。

ほかに先生方がビデオや写真をたくさん準備して
おいて、施設のサービス、レクリエーション、クラブ活

した。最初、候補者たちはちよつと心配し
ました。ベトナム人の体はあまり大きく
ないので「介護の仕事は無理かなあ」と
思いました。しかし介助するとき、ボディ

メカニクスを活用して、力をあまり使わ

動など紹介してくださいました。とても楽しかったで
す。特に、スカイプにより日本で働く先輩との交流を
通じて候補者たちは心配なことや知りたいことが解
決し、介護の仕事に興味を持つようになりました。

候補者たちは20グループに分かれました。理論を
勉強して、先生方が教えたとおりに基本的な介護技
術を実施しました。一人の候補者は利用者さんを演
じて、一人は介護士を演じました。食事介助、排泄介
助の方法を具体的にを行いました。声をかけながら介
助をしました。

あつという間に専門講義の2週間が経ちました。
専門講義は2週間だけということになっていますの
で、候補者たちは一生懸命勉強しました。時間が短
くても、介護の仕事についての知識を先生方が親切に
教えてくださいました。だからこそ、介護福祉士候補
者210人は先生方へ心から感謝しました。専門講
義とおして、候補者たちがアイマスクや車イスの移
動介助などを体験できて、とても役に立ちました。来
年、日本の施設で働くので、高齢者の立場や状態を
理解できて、適切な支援や対応ができます。特に高
齢者に対するコミュニケーションが必要だと思います。
(ファム・ティ・トゥ／ポー・ティ・ホアン・アイン／ファ
ム・ティ・トゥ・ホアイ／レー・クアン・ファン)

・看護

看護専門講義は8月11日から21日まで行われま
した。候補者29名が授業に臨みました。先生は東邦
大学の近藤麻理先生で、日本からいらっしやいました。
先生からたくさん大切なことを教えていただきました。
候補者も一生懸命勉強していました。

2週間、理論と実技を勉強しました。理論について、先生が熱心に説明してくださって、候補者がよくわかるようになりました。バイタルサイン時の声かけ、ベッドメイキングと環境整備などを勉強しました。先生は基礎知識から難しい知識まで詳しく教えてくださいました。そして、先生の教え方も上手だし、絵とビデオもたくさん使われるし、それで、だれも勉強にやる気が出ました。候補者がまじめに勉強しているのを見ると、先生はもっと知っていることを教えてくださいました。だから、いつも授業の雰囲気明るくなりました。

午後は、実技の時間です。ベトナムでは看護師候補者たちは治療の技術をよく勉強したり、練習したりしましたから、実技の講義では先生はケアの技術を中心にいろいろなことを教えてくださいました。車イスからベッドまで移動介助をする技術や歩行介助や更衣介助、食事介助などを勉強しました。どんな技術を勉強しても、先生が詳しく説明してくださいましたので、だれもわかりやすく感じました。候補者は興奮して、積極的に実習していました。最初はまだ慣れていないので、オロオロしましたが、講義の最後まで、ほとんどの候補者はできました。勉強した技術は大変ですが、皆が一生懸命に練習するようにしていました。

授業の中で、看護師にとって、カタカナの専門語彙が一番難しかったと思いました。なぜなら、カタカナの語彙は長いし、覚えにくいし、多いですから。それに仕事ではカタカナの専門語彙が使われているので、全部覚えなければなりません。そして、将来、仕事に役に立つと思います。授業の印象は専門の言葉がおもしろくて、講義の内容がわかりやすく、先生が熱心に説明してくださることです。そして、候補者たちは勉強しながら、専門語を使ったゲームをしましたから、授業の内容が覚えられ、役に立つと思いました。そして、

るくて、講義の内容がわかりやすく、先生が熱心に説明してくださることです。そして、候補者たちは勉強しながら、専門語を使ったゲームをしましたから、授業の内容が覚えられ、役に立つと思いました。そして、



アイマスク体験。前が見えないので大変でした。

て、勉強の過程で、グループのメンバーが変わりました。それは、グループでの仕事を練習するためです。候補者によると、大学で勉強した技術とEPAでの専門看護技術がちよっと違うことがあります。ベトナムでは治療を中心に病気を治していますが、日本では治療と介護を中心に病気を治しています。患者の気持ちを理解するのは一番大切なことです。

看護専門講義は21日に終わりました。最後の授業では、候補者たちは先生に感謝を表現するためにダンスをして、歌を歌ったりしてさしあげました。候補

者にとって、近藤先生の授業はおもしろくて、わかりやすく、さらに授業中にすぐ覚えることができました。先生の授業のおかげで日本での看護師の仕事がわかるようになりました。先生は本当に優しい先生だとわかりました。先生はインタビュで候補者について聞かれたら、楽しく語りました。候補者たちは若くて、いつも熱心に勉強して、テストの結果はともよかったです。それに明るいといいました。授業については、「ベトナムの大学での勉強したことと今の授業の方法は違うことがあって、難しいと思うかもしれませんが、たくさん勉強したら大丈夫だと思います。日本でもうまく働けるように、先生のアドバイスは、病院によって方法が違うことも患者さんによってもやり方も違うので、まず病院の人がやっているのをちゃんと見て、同じようにしよう」ということです。それはいいアドバイスだと思います。

あつという間に2週間が経ちました。先生も候補者たちも楽しいひと時を過ごしました。本当に役に立ちました。

(ホー・キム・オアイン／ドー・ティ・ハン／グエン・ティ・キエウ・オアイン／ドアン・チュ／ダム・ティ・ゴック)

今月号の記事はいかがでしたでしょうか。候補者たちにとって、この専門講義は日本での仕事のことを知り、日本で働くことをイメージできる非常に大切な学習です。日本語能力試験もあと3か月後に迫っています。これを機に学習に対するモチベーションも上げてほしいと願っています。